

共 同 参 画

"Kyodo-Sankaku"



"Kyodo-Sankaku"
Number 125
August 2019
Japan Cabinet Office

8

内 閣 府

Special Feature 1

特集 1 / 令和元年度「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」
開催報告

Special Feature 2

特集 2 / 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、
女性のチャレンジ賞、男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰



共同参画に寄せて

foreword

男女共同参「学」全国会議



楽しいパネルディスカッションに、日本大学薬学部薬学研究所 大坪久子先生、大和総研 研究員 是枝俊悟氏、クレオ大阪中央館の沢田薫館長と共に参加致しました。モデレーターは、ユーモア溢れる立教大学の萩原なつ子先生です。

大坪先生は、自ら啓発に取り組まれているアンコンシャスバイアスについて、その科学的根拠を解説して下さいました。沢田氏は、地域に根付いた支援が、女性の学び直しとキャリア形成を支えることを実例

と共にご紹介されました。是枝氏は、夫婦ともに、仕事と家事・子育てに参画することは豊かな家庭をつくるために費用対効果のよい「投資」と解説。自ら、長男の誕生を機に約2ヶ月の産休を取得し、共働き子育てを実践し、ミレニウム世代の生き方を体現されています。

私は、昭和女子大学のキャリアデザインポリシーを中核とした女子大生のキャリア支援と、企業で働く女性のキャリアアップや跡取り娘を支援する昭和女子大学キャリアカレッジの取り組みを紹介。また、ライフワークとして取り組んでいる不確実な時代に不可欠なりフレクション(内省力)の啓発活動についてもご紹介いたしました。

共に学び、未来を変えてまいりましょう！

昭和女子大学ダイバーシティ推進機構
キャリアカレッジ学院長

熊平美香

Mika Kumahira



目次

Contents

Special Feature

特集1

令和元年度

「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」

開催報告

page 02

Special Feature

特集2

男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、

女性のチャレンジ賞、

男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰

page 06

Topics

行政施策トピックス1

「進路で人生どう変わる？理系で広がる私の未来2019」開催

page 08

Topics

行政施策トピックス2

調製液状乳(液体ミルク)に関する行政説明会の開催について

page 10

News & Info

ニュース&インフォメーション

WPL(女性政治指導者)サミットが開催されました

page 12



令和元年度 「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」 開催報告

内閣府男女共同参画局総務課

1. 主催者挨拶・基調講演

池永肇恵内閣府男女共同参画局長による主催者挨拶と基調講演により幕開けとなりました。

池永局長からは、2012～2018年の6年間で女性の就業者数が288万人増加(就業者数全体の増加384万人の75%)するなど、近年の取組により女性活躍が確実に進展してきている一方で、女性の活躍の大きな妨げになっているのが女性に対する暴力やハラスメントであること、東京圏への人口流出は男性よりも女性が多く、女性にとって魅力的な地域づくりが重要であることが述べられました。また、女性活躍推進法の一部改正や政治分野における女性の参画拡大、女性活躍関係の国際会議の開催など、政府の取組について説明がありました。



内閣府男女共同参画局
池永肇恵局長

2. 特別応援メッセージ

続いて、定年間際にパソコンをはじめ、アプリ開発で注目を集めた若宮正子さんからは、男女共同参画社会を目指すための応援メッセージをいただきました。差別をしたがる人は、性別でも差別する。男女共同参画社会のためには、差別をなくす必要がある。一人一人の個人が輝く社会になれば、差別がなくなる。そのためには、あらゆる機会をとらえて勉強し、新しい時代に必要な存在となることが必要。自分に投資し、強制されるのではなく、主体性をもって勉強することが大切。輝く、たくさんの個人の力で、日本を元気にし、世界に貢献するようになることを期待している、と会場のみなさんを勇気づけました。



若宮正子さん

3. 取組事例紹介

取組事例紹介では、様々な活動にチャレンジし、輝いている3名の女性にそれぞれの取組をご紹介します。

『妻有ビール(株)』代表取締役の高木千歩さん(新潟県)は、東京から十日町市に移住し、地場産の原材料を使用したビールの製造・販売を通じて、地域おこしにつなげる取組にチャレンジしています。地域の農家とのつながりを大事にして、ビールクラフトの醸造所を立ち上げて働く場所を提供し、地域内での消費や、ビアフェスを開催して交流人口を増やすなど、地域で連携しながら、様々な活動に取り組んでいます。



妻有ビール株式会社
代表取締役
高木千歩さん

『特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク“やっぺす”』代表理事の兼子佳恵さん(宮城県)は、震災後、復興まちづくりの担い手としての女性の人材育成・社会進出を支援しています。公営住宅のコミュニティ支援、起業支援、人材育成スクール、子育て支援など、子育て世代の母親を中心とした女性スタッフが、様々な分野へ活動を拡げています。



特定非営利活動法人
石巻復興支援ネットワーク
“やっぺす”代表理事
兼子佳恵さん

男女共同参画週間に、令和元年度「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が、6月25日(火)に東京国際フォーラム(東京都千代田区)において開催されました。

『(株)シードハウス』代表取締役の小林コトミさん(神奈川県)は、出産後の再就職で苦労した体験を経て、プログラム未経験の主婦でも隙間の時間で学べるアプリ「codebelle」をリリース。また、コワーキングスペースを兼ねたプロジェクト型学習塾を立ち上げ、さらに女性専用のコワーキングを運営して女性起業家を講師としてキャリアプランニングを行うなど、女性のキャリアアップを支援しています。

株式会社シードハウス
代表取締役
小林コトミさん



4. 「多様な選択を可能にする学びに関する調査報告」

平成30年度に内閣府が実施した「多様な選択を可能にする学びに関する調査」について、調査報告が行われました。

報告は、内閣府男女共同参画局の宮崎千晶調査官が進行役となり、調査検討委員を務めた立命館大学産業社会学部教授の筒井淳也さん、リクルートワークス研究所調査設計・解析センター長の萩原牧子さんにご意見を伺いました。

調査は、国内に住む22～59歳までの男女3,000人ずつを対象とし、インターネットで行い、進路選択で重視した点や家族からの影響(性別を理由にした発言があったかなど)の振り返り、社会人になってからの学び直しの状況、性別役割分担をはじめとするジェンダー意識などの項目について回答いただきました。

内閣府男女共同参画局
宮崎千晶調査官



萩原さんは、

- 女性は、出産や育児で離職するケースが多く、その後に復職するまでを考えて進路選択をしている。日本の雇用システムでは、一旦離職をしてしまうと、復職に当たり、元のような仕事内容・雇用形態で働くのが難しい実態がある。
- 進路選択に当たり、家族から「男子だから」「女子だから」という性別を理由とした発言をされたことは、男性の方が多く、また、若い世代ほど多い。これは、女性の進学率が上がり、制約をする必要性が薄れてきた一方で、男性は、今でも学歴が将来の働き方に大きく影響しているためではないか。
- 今回の調査では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対し、「そう思う」と回答した割合が、男性では若い世代が高く、年齢を重ねるごとに低くなっていく傾向があるのが意外。

などとお話されました。

リクルートワークス研究所
調査設計・解析センター長
萩原牧子さん



筒井さんは、

- 日本はまだ共働き社会に移行している途中である。日本の雇用が変容したり、共働き社会への移行が進んだりして男性が転職や再就職をする機会が増えれば、男性にも資格志向が増えてくる可能性がある。この調査とは別のデータだが、結婚の際には、親が口を出す度合いは男性より女性の方が多いと言われている。親世代では、仕事(有償労働)の世界では男性がまだ優位であり、女性の結婚は相手の男性にかかっている、という意識があるのではないか。
- 日本の企業の特徴は、社内の人材育成を重んじるというところ。内部で教育をしたり、配置転換をするというのは、ややもすれば転勤や残業ありきということにもなり、女性管理職比率の低さにも結びついている。

- ワーク・ライフ・バランスという言葉は、仕事と家事・育児等以外の自由の時間も確保しようということ。フルタイムで働いていて、さらに家事・育児等も加われば、仕事以外の活動のための学びができない理由として「時間がない」という回答が一番になるのは当然。
- 働く女性が増えているとはいえ、フルタイム同士の夫婦は有配偶者の中で25%未満。これからの家計は、女性が補助ではなく、男女共に支える、と意識をどう変えていくか、考えていかなければならない。

などと述べられました。



立命館大学
産業社会学部教授
筒井淳也さん

5. パネルディスカッション 「多様な選択を可能にする学びの充実」

立教大学社会学部教授の萩原なつ子さんをコーディネーターに迎え、日本大学薬学部薬学研究所上席研究員の大坪久子さん、昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長の熊平美香さん、大和総研研究員の是枝俊悟さん、大阪市立男女共同参画センター中央館(クレオ大阪中央)館長の沢田薫さんの4名のパネリストで、「多様な選択を可能にする学びの充実」をテーマにディスカッションが行われました。



大坪さん：『無意識のバイアス』という言葉覚えてほしい。「あなたは女の子(男の子)だから」と周囲から言われたりして、子どもの頃から知らないうちに身につけてしまっているような偏見。それが、男女間の差別、さらには障害の有無、宗教、民族等、グループで固まって他を差別することも引き起こす。『無意識のバイアス』は誰でも必ず持っているものであるが、小さな偏見が積み重なると、社会の大きな差別になってしまうので、一人一人がお互いに気を付けましょう。



日本大学薬学部薬学研究所
上席研究員
大坪久子さん

熊平さん：学生のうちからのキャリア教育と、社会人になってから学び直すリカレント教育が重要。キャリア教育は、今の学生の親世代ではまだバリバリのキャリアウーマンのモデルがおらず、イメージが持てないので、社会人の先輩等と直接お話ができる場を設けてあげることが効果的。リカレント教育も、日本は遅れているのが実情。自分もリカレント教育に取り組んでいるが、5年前は、女性は管理職になることを全く期待されておらず、「管理職になってほしい」と上司に言われても「管理職って一体何?」と話をしていたのが、最近は、みな自分なりのリーダー像を語り、管理職になることを前提に前向きに学ぶようになっている。人生100年時代を迎え、時代の変化に対応するために、新しいことを学ばなければならないのは大人も子どもも一緒である。



昭和女子大学
ダイバーシティ推進機構
キャリアカレッジ学院長
熊平美香さん

是枝さん：経済の観点で男女共同参画を考えてみると、夫がもし育休を取って多少出世が遅れてしまう、あるいは残業をしないことにより残業代の収入が減るということがあったとしても、妻もともに働いていれば、妻の収入で取り戻すことができる。ただし、夫が家事育児を全くしなければ、女性は働き続けることは非常に難しくなり、二人目の子どもも生みづらくなる。夫婦ともに家事育児に参画することは、非常に費用対効果の良い投資だと思う。そこで、男女ともに働き続ける社会を前提とするなら、やはり学校教育の場で、女性だけではなくて、男性にも一緒にライフプランニングを教えることが大事になる。転職や起業、学び直しについても、共働きの方が、パートナーの収入があるためハードルが低く、チャレンジしやすくなる。男性が家事育児に参加することは、妻が力をつけることにつながり、結果として自分も自由な時間を持つことができるようになる。



大和総研研究員
是枝俊悟さん

沢田さん：大阪市立男女共同参画センター（以下「センター」）では、結婚や出産を機に退社された女性が、子育てしながらでもスキルアップできる講座を開設したり、起業支援をしたり、理工系へ女子学生が進みやすくするための応援セミナーを開催している。個人が、可能性を広げるために、自身の努力もちろん必要だが、それを後押しするために、大学をはじめ地域社会の資源を活用しつつ、長期的な視点でサポートできるセンターの役割は大きいと感じる。



大阪市立男女共同参画センター
中央館（クレオ大阪中央）館長
沢田薫さん

議論のまとめとして、4人のパネリストの方々に、キーワードを発表してもらいました。

パネリスト・キーワード	コメント
大坪久子 “無意識のバイアス” 5W1Hをみつけよう	いつ・だれが・どんなときに・どこで・だれに対して・どうやってバイアスが出てきているか、いつも気を付けて見つけましょう。
熊平美香 誰もが自分らしく生きる・学ぶ・貢献する社会が人を幸せにする	男性か女性かというのも確かに個性の一部として存在するが、一人一人というところにもっと目を向け、性別も関係なく本当に自分らしく、そんな社会を皆で一緒に作っていききたい。
是枝俊悟 男の子も家庭づくりを学ぼう！	家庭のことという女性、というふうに思われてしまうが、男の子に対しても、どうやって自分の家庭をつくっていくか、そのための働き方・子育てのあり方はどうなのか、教えていくことが重要。
沢田薫 セルフ・エフィカシー	チャレンジして失敗しても、そこから得られるものがある、と考え、それを積み重ねていきながら、「自分是可以する」という自己効力感を高めていくことが大切。

最後に、コーディネーターの萩原さんにより、社会とどうつながっていくかのソーシャルキャリア、男女が協力して生きることでお互いが幸せになること、可能性を広げるための教育の機会が平等であることが、結果として一人一人の多様な働き方や生き方に結び付いていく、と締めくくり、閉幕しました。



立教大学社会学部教授
萩原なつ子さん

全国会議の詳細な模様は、内閣府HP
<http://www.gender.go.jp/public/event/2019/index.html>をご覧ください。



男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、 女性のチャレンジ賞、 男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰

内閣府男女共同参画局総務課

男女共同参画週間中の令和元年6月25日、総理大臣官邸において、安倍内閣総理大臣、片山内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)出席の下、「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、女性のチャレンジ賞、男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰の表彰式」と「男女共同参画に関する懇談会」が行われました。

本年度の受賞者と懇談会の様子をご紹介します。



■ 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

多年にわたり、男女共同参画社会に向けた機運の醸成等に功績のあった方や、各分野において実践的な活動を積み重ね、男女共同参画の推進に貢献してきた方などを内閣総理大臣から表彰するものです。

〈男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞者〉11名

50音順、敬称略

氏 名	肩 書	都道府県	紹 介	写 真
池田 武彦	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員長	岡山県	優れた英知で、多年にわたり男女共同参画社会づくりに貢献した。	前列左から5人目
後藤 ミツノ	別府市地域婦人団体連合会会長	大分県	地元女性団体役員等を歴任し、男女共同参画推進に貢献した。	前列左から4人目
佐久間 英利	株式会社千葉銀行取締役頭取	千葉県	各種リーダーの会等に携わり、地銀人材バンクの創設に尽力した。	前列左から3人目
白井 壽美枝	特定非営利活動法人あおもリダイバーシティ理事長	青森県	ダイバーシティに取り組むNPOを設立する等リーダーとして牽引した。	前列左から2人目
竹中 昌子	(一財)岐阜県地域女性団体協議会会長	岐阜県	長年女性団体活動に携わり、男女共同参画促進・啓発に取り組んだ。	前列左から1人目
棚田 美津子	日本BPW連合会山形クラブ会長	山形県	日本BPW連合会役員等を務め、働く女性の地位向上に活躍した。	後列右から5人目
谷口 由美繪	宮崎県地域婦人連絡協議会会長	宮崎県	各婦人団体で役員を務め、男女参画社会づくりの推進に寄与した。	後列左から5人目
庭木 朝子	ひとひとネット武雄代表	佐賀県	委員や代表として、地域に根差した活動に取り組み、貢献した。	後列左から4人目
平間 育子	釧路市女性団体連絡協議会会長	北海道	駆け込みシェルター釧路の理事長等、様々な活動に尽力した。	後列左から3人目
藤谷 允子	岩国市男女共同参画団体連絡会会長	山口県	地元連絡協議会の会長を務め、女性の福祉等促進活動に尽力した。	後列左から2人目
村松 千恵子	元静岡県商工会女性部連合会会長	静岡県	地域・産業界を代表して、女性活躍計画等を推進した。	後列左から1人目

■ 女性のチャレンジ賞

企業、NPO法人での活動、地域活動等にチャレンジすることで輝いている女性個人、女性団体・グループ及びそのようなチャレンジを支援する個人、団体・グループを内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)から表彰するものです。

〈女性のチャレンジ賞受賞者〉4名

氏 名	肩 書	都道府県	紹 介	写 真
浅見 豊子	佐賀大学医学部付属病院 リハビリテーション科診療教授	佐賀県	医学領域を中心に男女共同参画社会づくりに貢献。	前列右から4人目
大山 直美	Team & AMA RE代表	大分県	地域で発生する端材・廃棄物を素材として利用し、「アップサイクル」を推進。	前列右から3人目
高木 千歩	妻有ビール株式会社代表取締役	新潟県	地域おこし協力隊として東京から十日町市に移住・定住。十日町市にブルワリー開設。	前列右から2人目
宮下 瞳	名古屋けいば 騎手	愛知県	子育てに奔走しながら、女性騎手歴代最多勝記録を更新。	前列右から1人目

〈女性のチャレンジ支援賞受賞者〉1団体

団体名	代表者	都道府県	紹 介	写 真
特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク(やっぺす)	兼子 佳恵	宮城県	復興まちづくりの担い手としての女性人材育成・社会進出を支援。	後列右から4人目

〈女性のチャレンジ賞特別部門賞受賞者〉2名

氏 名	肩 書	都道府県	紹 介	写 真
小林 コトミ	株式会社シードハウス代表取締役	神奈川県	女性のキャリアアップの機会を支援。	後列右から3人目
馬場 加奈子	株式会社サンクラッド学生服リユースshopさくらや代表取締役	香川県	子供の貧困対策や女性の起業支援など幅広い分野で活躍。	後列右から2人目

■ 男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰

令和元年度男女共同参画週間のキャッチフレーズ募集において、応募作品の中から最優秀作品に選ばれた作品を内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)から表彰するものです。

〈男女共同参画週間キャッチフレーズ最優秀賞受賞者〉2名

氏 名	都道府県	紹 介	写 真
梶浦 公康	東京都	「知る 学ぶ 考える 私の人生 私がつくる」にて最優秀賞受賞。	左上
浜口 直樹	神奈川県	「男女共同参「学」」にて最優秀賞受賞。	後列右から1人目

■ 男女共同参画に関する懇談会

6月25日、片山内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)主催による男女共同参画に関する懇談会を総理大臣官邸において開催しました。安倍内閣総理大臣、片山内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)に、表彰式に引き続きご参加いただき、男女共同参画に関する表彰受賞者、男女共同参画に深い見識を持つ方々や各界で活躍する女性など約200名にお集まりいただき、意見交換をしました。



「進路で人生どう変わる？ 理系で広がる私の未来2019」開催

内閣府男女共同参画局推進課

このシンポジウム「進路で人生どう変わる？理系で広がる私の未来2019」には、女子中高生やその保護者、学校の教員など、184名が参加、研究者、学生、起業家等、様々な分野で活躍している理系出身の先輩が登壇した他、理工チャレンジの趣旨に賛同する企業・大学等によるブース展示やワークショップも行われ、多様で豊かな理系の未来が紹介されました。

1. 開会挨拶

まず、主催者を代表して渡辺美代子氏(国立研究開発法人科学技術振興機構副理事、内閣府「STEM Girls Ambassador」*)から開会挨拶があり、冒頭、「世の中は、女性の理系選択について、様々な誤解を持っている。」と理系選択の弊害になっている事柄について説明いただきました。また、「本日お招きした先輩たちは色々な分野からお集まりいただいています。このシンポジウムが、誤解や偏見なく本当にやりたいことを選んでいただく手助けになればと思います。」と本シンポジウムの趣旨について説明がありました。

※理工系女子応援大使(STEM= Science, Technology, Engineering and Mathematics)

2. 基調講演

ズナイデン房子氏(日本マクドナルド株式会社上席執行役員CMO)と玉城絵美氏(早稲田大学創造理工学研究科准教授)のお二人に、「STEM Girls Ambassador トークセッション」と題して、理系選択の未来についてお話をいただきました。

ズナイデン氏からは、「理系を選択すると将来の選択肢が増える傾向にある。」「理系の知識・技術は専門性が高いから、代替可能性が低く職場で重宝される傾向もある。」「物事を理路整然と考える訓練ができるので、それにアートの感覚をプラスできれば、新しい価値を世の中に送り出すこともできる。」とお話いただきました。

玉城氏からは、理系を選択した理由を交え、「必ずしも理系科目が好きだった訳ではなかった。」「日々、こんなサービスやモノがあれば世の中が便利になる

と思っていたが誰も作ろうとしなかった。」「それなら自分で作ってみようと思い、理系を選択し、起業するに至った。」とお話をいただき、お二人の掛け合いによるトークに会場は、興味津々といった様子でした。



保護者の参加も多かったことから、保護者へ向けて、ズナイデン氏から、「女性は自分のことを過小評価する傾向がある。」「どんな小さいことでもいいので、お子さんのことを褒めてください。」「自信を持つことで、運命を切り開く力になります。」と力強いメッセージがあり、玉城氏からも、「お子さんが後悔することがないように、文理問わず様々な環境を見せ、選択肢を増やしてあげてください。」と語りかけました。

3. 経験談発表・ホンネ座談会

続いて、様々な分野で活躍する理工系分野出身の先輩による「経験談発表」「ホンネ座談会」が行われ、理系進学を目指したきっかけや学生時代のお話、職業とそのやりがい等について紹介いただき、理系進学にかかわる興味深いエピソードを聞くことができました。



「母親をがんで亡くした経験から、検診率を上げ、乳がんの早期発見を可能にしていきたいと考えた。現在は、受診者の負担が少ない乳がん用検診・診断機の開発を行う会社を経営している。」

令和元年6月8日(土)、科学技術振興機構東京本部別館にて、内閣府・文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催のシンポジウム「進路で人生どう変わる?理系で広がる私の未来2019」が開催され、多様で豊かな理系の未来が紹介されました。



「学生時代から、色々なことに興味を持ち、何事にも取り組んでみて追求するタイプだったが、飽き性で、2、3年後には飽きてしまった。移り変わりの激しい業界の方が合っていると思い、現在はアプリやWebサービスの開発をしている。」



「特別理系が好きじゃなかった。海外に行ったりして色々な経験をしているうちに、研究を通してモノづくりをしたいと思った。」



「小さい頃から科学館に行ったりして理系に興味があった。大学では、コウモリが超音波を発信し、距離を検知する仕組みに着目し、自動車の自動運転などに活用する研究をしている。わくわくする実験結果がでた時や学会で認められると楽しい。」



会場からは、進路選択に迷っている生徒や保護者の皆様から、学生時代にやっておくべきことや働く上で必要な考え方について質問があり、先輩たちからは、理系選択のみならず、社会人になる上で大切なことをお話いただきました。最後に、登壇した先輩から、会場の皆様へ熱いエールが送られました。

終了後のアンケートでは、「理系に進んだ後の具体的なイメージが出来てよかった。」「登壇者が、面白そうとか興味があったことを仕事にしている参考になった。」「理系に進むべき!ではなく、こういう道もあるよねという雰囲気でもよかった。」といった感想が寄せられ、今回のシンポジウムで様々な学びがあったことがうかがわれました。



4. ブース展示・ワークショップ

内閣府男女共同参画局が中心となって取り組んでいる「理工チャレンジ(リコチャレ)」の趣旨に賛同する団体によるブース展示とワークショップが行われました。ブース展示では、17団体から仕事内容や取組、学校生活等の紹介が行われました。



ワークショップでは、3団体が参加し、ロボットプログラミングセミナー、おもちゃの構造を学ぶワークショップ、簡単な化粧品の実験などを実施し、多くの方にご参加いただき、みんな真剣に楽しく取り組みました。参加者のみならず、各企業等の担当者同士がネットワークを形成できる機会ともなり、今後の取組拡大につながる有意義な時間となりました。



当日の様子(動画)は、こちらをご覧ください。
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/video/index.html>



調製液状乳(液体ミルク)に関する 行政説明会の開催について

内閣府男女共同参画局総務課

液体ミルクは、液状で流通する特徴に基づく高度な衛生管理が必要です。このため、平成31年2月13日から3月14日にかけて、地方自治体の行政担当者から消費者に対し安全意識を啓発していただくことを目的として、厚生労働省と消費者庁による説明会が、公益社団法人日本栄養士会の協賛のもと、全国7ブロックにおいて開催されました。

液体ミルクの規格基準等について (厚生労働省)

液体ミルクについては、食品衛生法に基づく、“乳等省令”において、定義が定められるとともに、製造方法等の規格基準が定められた。

(1)製造方法等

原料を混合し均質化した後、容器に充填してレトルト殺菌するレトルト殺菌タイプと、加熱殺菌後に予め殺菌した容器包装に充填する無菌充填タイプがある。規格基準の設定にあたっては事業者団体から、殺菌条件、賞味期限等の他、細菌検査にて商業的無菌性を確認していること、栄養成分が特別用途食品の基準値内に残存すること等のデータが提出された。

(2)規格基準

常温での長期保存を可能とする目的で、商業的無菌性を確保するために必要な方法での製造、原材料や添加物及びこれらの混合割合に関する厚生労働大臣の承認、常温で長期間保存可能な容器包装の使用等を規定している。

(3)注意事項

液体ミルク内での微生物の増殖について試験したところ、開封以降増殖が始まり、4時間後には約10倍～100倍に、12時間後には、約10万倍に増殖。このため、開封後の速やかな使用や、飲み残しを再利用せず廃棄することが重要とされた。

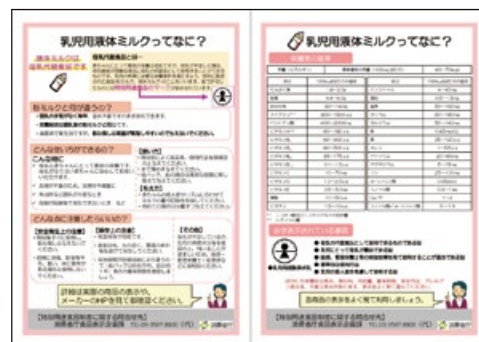
特別用途食品の許可等について -乳児用調製液状乳の例- (消費者庁)

(1)特別用途食品制度における液体ミルク

健康増進法により、乳児の発育に適する母乳代替食品として乳児用調製液状乳(液体ミルク)を販売する場合は、「特別用途食品」として表示許可を受ける必要がある。消費者庁は、平成30年8月、特別用途食品の許可基準に係る告示・施行通知を改正した。基準では、母乳代替食品としての特別用途表示、必要な栄養素の基準、消費者に適切に利用いただく為の必要的表示事項を定めており、国際的な食品規格であるCODEXに準拠した内容としている。

(2)液体ミルクの活用について

消費者や指導者の方々に正しく理解していただく必要がある為、使用上の注意、特徴等を分かりやすく記したリーフレットを作成し、HPに掲載することとした。



(消費者庁HP「乳児用液体ミルクってなに?」より)

今後の活用に向けては、製品の特性と対象者を正しく理解し、母乳代替食品として適切に利活用するため、医師・管理栄養士等の指導を得て利用すること、表示を通じて提供された情報をよく確認し、利用いただくことが必要である。



乳児にとって母乳は最良の栄養ですが、様々な事情や状況から母乳保育が困難な場合、粉ミルク、液体ミルクは唯一の栄養補給源となります。平成21年4月に事業者団体から厚生労働省への要望書提出以降、各関係機関で連携して手続きを進めてきたところ、平成30年8月の規格基準等の設定、平成31年3月の商品販売により、液体ミルクが新たな選択肢となりました。

赤ちゃん防災プロジェクトについて (公益社団法人日本栄養士会)

東日本大震災において、最も栄養的な配慮を必要としていた者は乳児であった一方で、地方自治体における粉ミルクの備蓄は低い状況にあった。このため、日本栄養士会は、平成30年11月、授乳婦や乳幼児に対する避難所の環境整備及び母乳代替食品の備蓄、提供について、関係機関・団体と連携・推進していく「赤ちゃん防災プロジェクト」を開始した。本プロジェクトでは、①「災害時における乳幼児の栄養支援に関する手引き」等の作成・周知、②災害時の乳幼児の栄養・食支援に向けた地域防災活動の支援、③母乳代替食品の備蓄推進、災害時における搬送体制の拡充と提供を柱として活動していくこととしている。

①の手引きは母子双方への栄養支援を記載しており、感染症予防の観点からの母乳継続支援の重要性、母乳代替食品利用にあたっての基本的な取扱、特徴等を専門職向けに解説。また、一般向けに「災害時に乳幼児を守るための栄養ハンドブック」を作成する。



(日本栄養士会HP「災害時に乳幼児を守るための栄養ハンドブック」より)



また、今年度以降、地域における母乳代替食品の備蓄推進と知識の普及を図ることとしている。母乳代替食品については、常温(おおむね25℃以下)での保管が必要である他、「母乳代用品の販売流通に関する国際基準(WHOコード)」への留意が必要。

おわりに

液体ミルクは新たな製品であり、乳児の健康を守るためには、母乳育児との関係、製品の特性や適切な使用方法、表示等について消費者が正しく理解し、安全に利用されるよう、啓発していくことが必要です。今般の説明会では、地方自治体の食品衛生担当者の他、健康、母子、防災担当者といった、複数部門から参加があり、関心の高さがうかがえました。また、液体ミルクに関連した規格基準及び食品表示制度並びに災害時の栄養支援体制について広く説明があり、今後、地方自治体における啓発や災害時の妊産婦・乳幼児支援に寄与することが期待されます。

液体ミルクの普及に向けた手続きの経緯等の詳細については、以下の内閣府男女共同参画局のHPよりご覧いただけます。

<http://www.gender.go.jp/policy/saigai/milk.html>



News & Information

1

News

内閣府

WPL(女性政治指導者)サミットが
開催されました

6月26、27日に、衆議院と女性政治リーダーの国際ネットワークであるWPLの共催による「女性政治指導者サミット」が開催され、世界87か国200名以上の議員が集まり、「SDGsを通じて社会の発展に向けてアクションを起こそう」をメインテーマに、意見交換等を行いました。片山さつき女性活躍担当大臣は、「世界の中でのアジアの役割と女性」のセッションで、各国副大統領・閣僚と議論をしました。2日間の会議で話し合われた結果は成果文書としてとりまとめられ、29日開催のG20首脳特別イベントにも提出されました。

ホームページ検索 **WPL SUMMIT 2019** 検索



2

News

内閣府

G20大阪サミット 女性のエンパワメントに
関する首脳特別イベント

6月29日、G20大阪サミットに際して、安倍総理主催により、女性のエンパワメントに関する首脳特別イベントが開催され、G20各国及び招待国の首脳、特別ゲストであるマキシマ・オランダ王妃(開発のための金融包摂に関する国連特使)及びイバンカ・トランプ米国大統領補佐官、国際機関、組織の代表者が出席しました。イベントでは、国際機関等の代表から安倍総理に対し、女性のエンパワメントに関する報告書や提言書が手交され、女性に関する更なる取組の必要性、女性のエンパワメントに対するG20のコミットメントを確認しました。また、安倍総理から来年4月3、4日に国際女性会議WAW！を開催することが発表されました。

ホームページ検索 **G20大阪サミット 2019** 検索



3

News

内閣府

「子供の未来応援基金」の支援団体を募集！

「子供の未来応援基金」は、すべての子供たちが夢と希望をもって成長していける社会の実現を目指し、企業や個人の方々の寄付からなる基金です。

本基金では、社会全体で子供の貧困対策を進める環境を整備することを目的として、貧困の状況にある子供たちに寄り添って草の根で活動をするNPO等に対して支援を行っています。

今年も、8月5日(月)から支援団体を募集することといたしました。対象となる活動の実施期間は、令和2年4月～令和3年3月です。

応募期限は9月20日(金)17時までとなります。

詳しくは「子供の貧困 基金」で検索いただくか、以下のQRコードからホームページをご覧ください。



© Mercis bv

4

News

文部科学省

「女性関連施設相談員研修」実施

NWEC(国立女性教育会館)では、6月19日～21日に標記研修を実施し、全国各地の女性関連施設相談員及び地方公共団体関連施策担当者ら96名が参加。男女共同参画の視点に立った相談のあり方、心理的回復支援のポイントと相談員自身のメンタルヘルス、女性相談の実態と法知識等の習得や、具体的対応を考えるロールプレイの体験により、相談員として必要な技術と知識への理解を深め、他機関との連携と事業展開の可能性を探りました。参加者からは「女性相談についての理解・学習が深まった」等の感想が寄せられました。詳細はこちらをご覧ください。

HP https://www.nwec.jp/event/training/g_soudan2019.html



阿南市長が“おとう飯”サポーターに参加！

男女共同参画局は、「簡単に、手間を掛けずに、多少見た目が悪くても美味しければ、それが“おとう飯”。」と、男性の料理参画を応援しています。

7月には、32人目の“おとう飯”を応援するサポーターとして、岩浅阿南市長に参加していただきました！岩浅市長の“おとう飯”は、阿南市の美味しい野菜で作ったみんな大好き「オムライス」、栄養たっぷり「豆乳スープ」に「サラダ」です。男性料理教室の仲間「チーム“おとう飯”」と一緒に作っていただきました。

男女局では、自治体の首長の皆様の“おとう飯”サポーター参加をお待ちしています。また、自治体などで行われる「男性の料理促進」イベントに、“おとう飯”ロゴマークの提供や“おとう飯”エプロンの貸出を行っています。ぜひお問い合わせください！

一緒に“おとう飯”を盛り上げていきましょう。



おとう飯サポーターの岩浅嘉仁阿南市長



詳しくはこちら！

HP <http://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html>

編集後記

Editor's Note

関東地方では梅雨が長引いていますが、この号をお届けできるころには本格的な夏到来かと思います。皆様暑さ対策をしっかりと健康には十分ご留意ください。

さて、夏といえば1年後東京でオリンピック・パラリンピックが開かれます。開催に向け、競技場やメダルの紹介、チケット販売、さらに交通規制やテレワーク、暑さ対策も始まり、準備が加速しています。1年後、どんな開幕を迎えるか、想像が膨らみますね。

では1年後の夏、男女共同参画社会はどこまで実現しているでしょう。実現のためには、オリパラ準備のように、課題の一つ一つ向き合い、丁寧に解決していくことが必要ではないでしょうか。

今月号は男女共同参画週間に行われた全国会議や、功労者等の表彰の模様をお伝えしています。こういう議論を積み重ね、そして関係する皆さんそれぞれのたゆまぬ活動が、少しずつ、社会を前に進めていくのだと思います。皆様良い夏を、そしてさらに素敵な1年後の夏を。

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」8月号

 <http://www.gender.go.jp>

 <https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>

第125号 ◆ 2019年8月9日発行

編集・発行 ◆ 内閣府

〒100-8914

東京都千代田区永田町1-6-1

内閣府男女共同参画局総務課

電話 ◆ 03-5253-2111 (代)

印刷 ◆ 株式会社ドゥ・アーバン

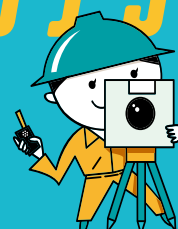
表紙デザイン ◆ 株式会社外為印刷

女子中高生の皆さん、ぜひ近くのイベントへ行ってみよう！

RIKOCHALLENGE SUMMER OF 2019



求む、
未来の
理工系女子！



リコチャレ
RIKOCHALLENGE
SUMMER OF 2019

内閣府・文部科学省・経団連共催



職場見学・仕事体験・女性技術者や研究者との交流など理工系の仕事や将来に触れられるイベントを開催します。普段は見られない、ものづくりや建設の現場を見たりステキな理工系女子の先輩の話を聞いたり！貴重な機会です！



理工系のお仕事体感しよう！

夏のリコチャレ2019

さあ、この夏、ステキな理工系の未来を探しにいきませんか？！

2019年7月13日ころ～8月31日まで

全国各地にて開催

理工系に進むと
どんなお仕事が
あるの？

くわしくは内閣府「理工系チャレンジ（リコチャレ）」サイトへ
[HTTP://WWW.GENDER.GO.JP/C-CHALLENGE/](http://www.gender.go.jp/c-challenge/)

